

【人間開発学部】

小論文試験

解答例(解答のポイント)

※公開する解答例には、別解がある場合があります。

問題1

正義は勝ったと言っていばる人は嘘くさい。アンパンマンがそうであるように正義はもっと慎ましいものだ。正義の行動をとる人は、強い人というわけではなく、弱い人でもやむにやまれない気持ちで正義の行動をするものである。自分を犠牲にしても誰かを救うという正義の行いには、勇ましさを含む愛とやさしさを含む勇気が伴っている。そして、正義を行う時は、誰かを道連れにしたりせず、自分一人で戦うもので、その責任は自分で負うという覚悟が必要であり、また、自分が傷つくという自己犠牲を覚悟しないとできないものである。普通の人でもヒーローになることはできるが、それは、追いつめられ、やむにやまれぬ立場にたった時でなければなれないものだ。

問題2

解答例(1)

この文章を読んで真っ先に思い出したのは東日本大震災のことである。当時私は3歳だったから詳しいことは覚えていないが、後になって、あの時、誰かを助けようとして一緒に亡くなった人々がいたことを知った。このことを真剣に考えたのは中学の授業の討論だった。その時私は、私にはどうもできそうもないということと、それができるのはよほど強い人だろうということだった。

だが、今回、改めてその意味を考え直すことができた。まず、その行為がやむにやまれずに生まれたということだ。その人が強いかどうかではなく、人はやむにやまれずにそういう行動をすることがあるのだ。そして、その思いを支えているのは、人に対する愛であり、もしその愛がなければ、やむにやまれぬ気持ちも生まれてはこないだろう。震災の際に、誰かを助けようとして命をなくした人たちの原点にはこの愛があったのだ。そして、このやむにやまれぬ気持ちが行動に移される時、そこには勇気があったということだ。著者は、愛と勇気に支えられた行動には、一人で行う覚悟が必要で、しかも自己犠牲が伴うと言う。あの時、誰かのために命を失った人は、このような条件を乗り越えた人々だったのだろう。著者によれば、それができるのは、著者によれば、強い人だからではなく、やむにやまれず行動できた人が、結果的に勇気のある人だったと考えられるから、実際にその場に遭遇しない限り、自分がやむにやまれずに行動を起こせるかどうかはわからないのだろう。

私も長い人生の中でそういう場面に遭遇する可能性があるわけだが、強くなることを目指すのではなく、人に対する愛を育み、本当の正しさとは何かを考え続けていきたい。

解答例（2）

私は中学3年の時、吹奏楽部の部長を任されていたが、コンクールに向けて厳しい練習が続く中、練習の参加に消極的な部員が現れた。当時の私は、練習への参加は絶対に正しいことと考えていたため、彼らと鋭く対立し、対話の糸口も見えず、修復は不可能に見えた。

その時、普段は大人しい副部長が、休み時間や放課後に、彼らと一对一の対話を始めたのだ。そして、みんな、よりよい音楽を追求する気持ちは同じだが、練習で喜びが感じられなくなって、気持ちが離れていったと言っていると私に告げ、私が本当に目指しているものは何なのかと穏やかだが厳しく問いかけた。私が声を荒げた時、彼らの本心を聞くことはできなかったのに、副部長は彼らの心に入り込んで本当の気持ちを聞き出し、私にも向かい合ったのだ。

そして、私も改めて自分の気持ちも同じであり、コンクールをみずすあまり大切なことを見失っていたこと、自分が正しいと思いきみ練習に消極的な仲間がまちがっていると決めつけていたということを、部員全体に告げて謝り、もう一度みんなで心を一つにすることができた。

今、思い返すと、あの時の副部長は、仲間や部活動を深く愛していて、やむにやまれぬ思いで動いたのだと改めて思う。あの勇気はそこから生まれたのだ。そして、自分

一人で責任を引き受けて動き出したのだ。それは自己犠牲の行動でもあった。そして、副部長は自分を誇ることもせず、慎ましかった。

私は教師を目ざしているが、自分がどんなに傷ついても、勇気を出して行動しなければならない場面に出会うこともあるだろう。その時、本当に子どもたちに対する愛に基づいて、やむにやまれぬ思いで一人で立ち向かえる教師になりたい。